

発行日 2007年3月15日
 発行：盲人情報文化センター録音製作係
 〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号道頓堀千鳥ビル
 電話06-6211-0910(録音製作)

カッコの文章の読み方について

久保 洋子

立 声訳とは(活字の情報)を(音声情報)に変換することです。元になる活字の情報(原本)は当然のことながら、目で見分り易いように作られています。これを原本通りに読んでいっただけでは音声情報としてはわかりにくいものになってしまうことがあります。図・表・写真などをはじめ漢字の同音異義語、()などの記号と、問題点はいろいろありますが、今回はこのうちの()について考えてみたいと思います。

()の使われ方も、本によっていろいろです。原本通りに読むというのは音声訳の大原則ですから、すべて()をカッコ・・・トジ(カッコトジ)と読み込めばいいかと言うとそうとばかりは言えません。例えば次々()が出て来てその都度、カッコ・・・トジと入れていると「きき手」にはカッコ・・・トジばかりが耳について中身が伝わりにくくなってしまいます。

原本通りということと原本はどのように書いてあるかを正しく伝えることと考えられた時代もあったようですが、大切なことは「()や図など文字でないものも使って原本が伝えたい情報を、音声化して正しく伝える」ことです。

「昭和28年(1953年)」のような()

はラジオなどでも()なしで普通に読まれています。場合によってはカッコ・・・トジを入れると却ってわかりにくくなってしまふこともあります。

沼津市(静岡県)のような()も同じです。この場合順番を入れ替えて静岡県沼津市と読む方が分り易いというのは誰もが考えることですが、これはルール違反です。()を読み込むかどうかということは音声訳者の才量の限界です。順序を入れかえることまで認めてしまうと、音声訳者翻案の本ができてしまうこととなります。

原本通りに読んでしかも原本の内容を正しく伝えることです。

一冊の本の中でも()の使われ方は様々です。

()をどのように読めばいいか、一つ一つの()をきちんと考えて読むことが大切です。読み方としては

- ・カッコ、トジを読み込む
 - ・カッコ、トジを入れないで読む
 - ・カッコ内を読んでカッコの前に戻って読む
- などが考えられますがこれでは処理できない時もあると思います。内容がきちんと伝わる読み方を考えてください。読み方を決めたら読んでみてきちんと伝わる読みになっているか慎重に判断してください。

4月

9日(月) 『音声訳初心者講習会』第1講スタート
 10日(火) 『マトリョーシカ(2005年度修了生)』
 定例勉強会 10時～12時

11日(水) 『橋本勝利のフォロアップ講習会』
 水曜コーススタート

※第4水・金から第2水・金に変更

13日(金) 『橋本勝利のフォロアップ講習会』
 金曜コーススタート

『東洋医学チーム定例勉強会』 15時～17時

5月

『日本ライオンハウスチャリティコンサート』

ヴァイオリン/和波幸樹

指揮 ヴァイオリン/澤和樹

管弦楽/千里フィルハーモニー

於：ザ・シンフォニーホール

開場 12時半から 開演13時半

18日(水) 『ボーコアポコ・花水木の第1回』
 定例勉強会・13時～15時

18日『わかば』(2006年度音訳講習修了生チーム)
 定例勉強会 10時～12時

19日(木) 『録音図書製作講習会』スタート
 ※試験日は4月5日(木) 10時～12時

26日(木) 『二十四の躰』
 定例勉強会 10時～12時

5月

『録音ボランティアの研修・交流会』

於：玉水記念館 10時～16時

対象 盲人情報文化センターの録音製作に携わる

音声訳者・校正者・編集者・作業ボラン

ティア

※当日は、録音製作に携わるボランティア・職員は
 全員、玉水記念館へ集合してください。

録音ボランティア研修&交流会のお知らせ

録音製作のボランティア活動（録音・校正・編集・作業）はとても様々です。また、曜日ごとに活動日が分かれている方や、家庭録音（校正、編集）のみの方など、活動環境も各自違います。このようなことを踏まえて、今回の企画をできるだけ多くの関係ボランティアに周知し、多くの方に参加してもらい研修・交流会を通して、職員はもちろんのことボランティア同士の連携と親睦を深めたいと考えていますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

日時：5月12日（土） 午前10時～午後4時

場所：玉水記念館

大阪市西区江戸堀1丁目10-31（最寄駅：地下鉄四つ橋線 肥後橋駅）

参加費：100円

日程：午前 オリエンテーション
研修・勉強会

昼食 500円程度のお弁当を販売予定
（会場で受け渡し）

午後 交流会
・全員参加型クイズ大会（企画中）
・合唱会

職員とボランティアで実行委員会を作り、研修会・勉強会・交流会の内容を現在検討しています。詳細が決まり次第、申込み書付の案内状を作成する予定です。

07年度より自宅録音グループを
曜日別に再編していきます。

現在、自宅録音チームは6チームあります。「24の瞳」（木曜日）「ポーコアポーコ」（水曜日）「花水木」（水曜日）「マトリョーシカ」（火曜日）「わかば」（2006年度修了チーム・水曜日）、「ICCBチーム」（遠方への引っ越し等でスタジオ録音が出来なくなった人のチーム）。

2007年度は、水曜日の「ポーコアポーコ」と「花水木」チームが合同します。チームのお世話役として金井典子さんと山見順子さんにお願ひしました。水曜日のグループは他に、2006年度修了グループの「わかば」がありますが、今年度1年間は、水野順子さんと山中真理子さんがチームのお世話役として、月1回の蔵書製作の実践勉強会を行っていきます。2008年に4月から水曜日チームに合流していく予定です。

自宅録音チームは
「共同製作」を推進していきます

自宅録音チームは曜日別チームでそれぞれ「共同製作」を取り組んでいきます。

共同製作を進めていく理由は、

- ①共同で製作することで、一人では音訳が難しいものでも可能になってくる。
- ②共同で取り組むことで処理などの研修が月1回の定例勉強会でできる。
- ③お互いに校正などをすることで、耳を鍛え、自分自身の読みの勉強にもなる。
- ④担当の共同製作部分は録音する時間が限られていることからスタジオ録音を推進することができる。

現在、チームで取り組む原本を選定中です。

盲人情報文化センターの各種講習会の流れ図

講習会終了後所属するチーム

『初心者音訳講習会(全8回)』は、音訳未経験の人を対象に、毎週月曜日の午後(13時~15時)実施します。
この講習会は**受付順で、試験はありません。**年4期に分けて通年実施していきます。

初心者音訳講習会

対面朗読

「初心者音訳講習会」を修了しても録音図書の製作活動は出来ません。利用者を前に読む対面朗読の活動ができます。

『音訳基礎講習会』は今後は『プライベート図書製作講習会』として実施します。終了後は、「プライベートチーム」に所属して活動していただきます。第2水曜日、午後1時~3時が定例の勉強会になります。

音訳基礎講習会
(プライベート図書製作)

プライベートチーム

「録音図書製作講習会」の受講資格は原則として盲人情報文化センターの「音訳基礎講習会」修了・または、相当程度の音訳活動経験が条件になります。

『録音図書製作講習会』は盲人情報文化センターの蔵書図書を製作する為の講習です。終了後、「曜日別スタジオチーム」または「曜日別自宅録音チーム」に所属し蔵書図書の製作を行います。

録音図書製作講習会
「蔵書製作」

曜日別自宅録音チーム
火曜日チーム(マリヨカ)
水曜日チーム(花水木・ホーコボロコ)
木曜日チーム(24の瞳)

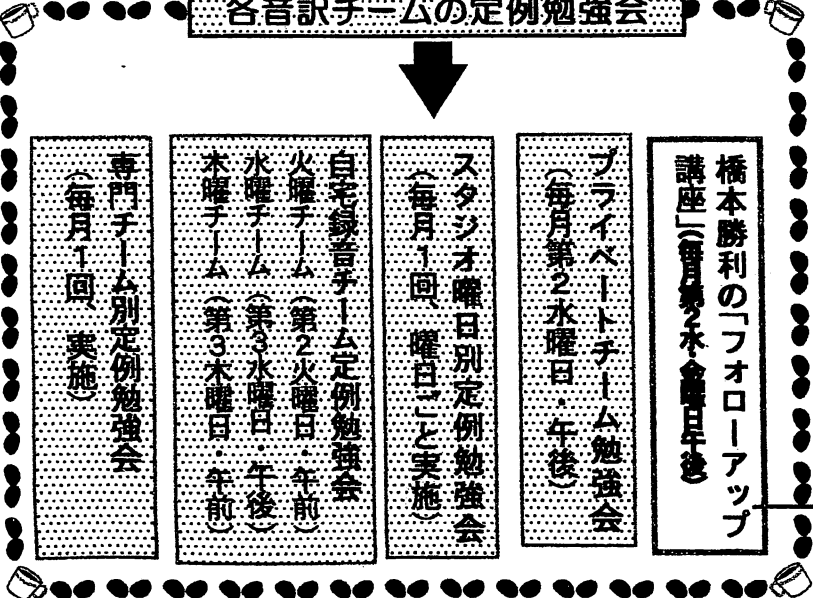
盲人情報文化センターで3年以上、音声訳活動に携わっている方は、毎年、実施されます「専門別の音訳講習会」を受講できます。終了後、講師の推薦があれば、近畿視情協の専門チームに所属し活動することができます。

専門図書音訳講習会

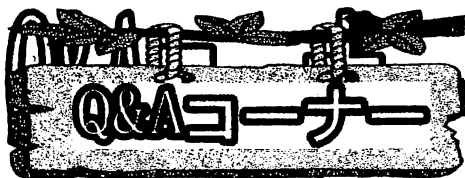
スタジオの各曜日チーム
ミ曜チーム
火曜チーム
水曜チーム
木曜チーム
金曜チーム
土曜チーム

各音訳チームの定例勉強会

近畿視情協専門図書音訳チーム
パソコンチーム
東洋医学チーム
理数チーム
古典チーム
英語チーム



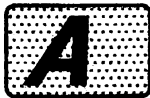
「フォローアップ講座」は盲人情報文化センター以外のグループの方も参加できます。申込は受付順で実施しています。



録音製作係の直通電話番号
06-6211-0910



「Recdia」で録音しています。毎回行う「騒音測定」の意味を教えてください。また、時々、「促音」が消えていくことがありますけどどうしてでしょうか。



「Recdia」で録音している方は、録音を開始しようとする時、毎回「録音を開始するには騒音測定を実施する必要があります。騒音測定を実施しますか?」ときいてきます。騒音測定をしないと録音が出来ませんので、この段階で「はい (Y)」をクリックします。2数秒後に「測定結果は-◎◎dBです。」と表示されます。この時、「-50dB~-60dB」くらいの間であれば問題はありませんが、「-30dB~-40dB」位だと、雑音が大きくなります。(この数字は-の数字が大きくなるほど雑音は小さいということになります。)
「-30dB~-40dB」でも録音は可能ですが、そのまま録音すると、声量のあまり無い人の場合、促音などが「雑音」と一緒に消えてしまうことがあります。例えば、「夫と出かけた」が「オトと出かけた」と聞こえてしまい、意味が通らなくなる事があります。(※デジ編集の段階でも起こることがあります。次回説明します) こうした事を防ぐには、①騒音測定で「-50dB~-60dB」

くらいになるよう録音のボリュームを小さくします。ボリュームを小さくすると、今度は録音の音量が上がらなくなりますので、マイクと口との距離を近くして音量を上げるようにします。マイクと口との距離は20センチ前後までにしましょう。
②もう一つの方法は、「設定」を開き「フィルター設定」で、「ノイズゲート」の数字を「0」にします。「ノイズゲート」の役割は、「騒音測定」した「雑音」の音量を小さくする機能です。「0」を設定すると「なにもしないで雑音をそのまま録音します。「100」を設定すると「雑音をゼロにして完全な無音」にします。「初期設定は「50」になっていますが、「50」は雑音を50%ほど小さくします。「ノイズゲート」を「0」にすると雑音もそのまま録音しますので促音が消えることはありません。

※注意「100」は設定しないでください。完全な無音は逆に「真空音」となってしまうのでかえって耳障りになります。

グループの『ろくおん通信』の更新について

2007年度の『ろくおん通信』の更新時期になってまいりました。2006年度は自動更新にさせていただきましたが、2007年度につきましては、今後の『ろくおん通信』の紙面の変更点などをご理解の上、ご希望される方のみお申し込みください。

尚、2007年度から日本ライトハウス盲人情報文化センターのホームページにも掲載する予定です。

＜今後の『ろくおん通信』の紙面の変更とお願い＞

これまで、『ろくおん通信』の内容はグループの利用が多いことから、盲人情報文化センターのボランティア向けの内容をあまり掲載してきませんでした。しかし、この間、盲人情報文化センターの講習会を修了した自宅録音チームなど8グループを超えてきました。こうした事から、今後、この『ろくおん通信』は盲人情報文化センターのボランティア向けの情報紙として位置づけ編集していく予定です。

尚、グループの申し込み部数は、2007年度より「1部のみ」とさせていただきますのでご了承ください。